



優秀賞

言語ちようかく士になる

立山町立立山北部小学校4年

富樫 羽菜

わたしは、言語ちようかく士さんになりたいです。

わけは、わたしの弟幹ちゃんにはしょうがいがあります。だから、弟や弟のようにしょうがいがある人を助けたいと思ったからです。

弟には知的しょうがいがあり、自分の気持ちを言葉で話すことができません。だから相手に自分の気持ちがうまく伝わらずパニックになることがあります。弟はいつもにこにこしていて、やさしい子です。でも、ある日、急にげん関に走り出したり、おこったような声を出したりしていました。その次の日に弟は熱を出しました。前の日も体調が悪かったけど、それを伝えられなかったのだと思いました。

幹ちゃんは、自分の気持ちを身ぶり手ぶりで表すことができます。だから、わたしは、幹ちゃんの様子をよく見るようにします。

また、幹ちゃんは相手が話すことがほとんど分かります。おばあちゃんが、「幹ちゃん、戸しめて。」

と言うと、幹ちゃんはサツと戸をしめに行きます。だから、わたしも、幹ちゃんにはつきりとした声で話しかけています。

幹ちゃんは、りよう育のディサービスに通っています。そこで、言語ちようかく士さんは、絵カードを使って、相手の気持ちを知らうとします。また、相手の目を見て話すことを知りました。

わたしも幹ちゃんや相手の気持ちを考えるようになります。そして、しょうがいのある人たちを少しでも助ける言語ちようかく士さんになれるように、ど力していききたいです。